

植物の栄養は植物から

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年04月24日

皆様のご家庭でのガーデニング、気候のよくなるこれからは忙しくなりますね。

植物の栄養剤は何か使っているいらっしゃいますか？

植物が土からP（リン）、N（窒素）、K（カリウム）を効率よく吸収しやすいという「HB-101」というのがあります。

杉、桧、松、オオバコより抽出した植物の栽培のための天然植物活力液で安全・無害で減農薬栽培や有機栽培に使われている自然にやさしいもの。

水1000m Lに1滴という少なさで使用しますが、植物の葉の色が元気になり、成長が早く感じられました。その効果にちょっと驚きましたが、35💎で1000円くらいします。



平成25年4月23日

環境記者 K (NO. 120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年04月24日

平塚二丁目町会「花いっぱい事業」報告

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年05月15日

平塚二丁目町会は「花いっぱい事業」に取り組んで5年目を迎えています。
4月25日（木）午前10時～12時、平塚二丁目町会会館で25名が参加し、品川区の講師派遣助成を受け、原講師指導で作品作りをしました。

種まきから花の開花、種の収穫、咲き終わった植栽を土壌に戻し、収穫した種を撒くという「循環型E C O」仕上げの年になります。

植木鉢の土を回収し、生ゴミや枯れた植木を乾燥機にかけ、黒土に混ぜて京陽公園で熟成、数回攪拌し、約6ヶ月後に古い土は栄養豊富な土に生まれ変わり、町会が各家庭に貸与している「E C Oプランター」用の土として配布しています。

この土を使って園芸作品も作って楽しんでいます。土作りには11名が携わっています。

今回製作する「芝坊や」の材料は、芝の種・靴下片方と350mlのペットボトルが主な材料。

花タワーは、500mlのペットボトルと花苗が主な材料です。

写真のように、楽しく作って、抱きかかえるようにして帰っていきました。

芝が芽を吹き、頭が青々となっていくのを楽しみながら、また、花タワーは次から次へと咲く花を愛でながら家庭団欒に彩を添える日が続くことでしょう。



平成25年4月27日

志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年05月15日

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年05月21日

こんにちは！五反田綺麗にし隊です！！

私たちは普段、五反田駅周辺や駅前の植え込み・タクシー乗り場のゴミ拾いを定期的に行っています。

清掃活動を通して地域交流を図りながら、ゴミを捨てない街づくりを目指しています。綺麗で住みよい五反田の街を地域の方たちと共に作っていきたくと考えています。

今回は4月28日に鎌倉で行われた「第8回鎌倉路地フェスタ(*)アートでつないで鎌倉の路地の魅力を再発見」に参加してきましたので、そのご報告です。

「五反田”綺麗にし隊」がどうして鎌倉？と思う方がいらっしゃるかもしれませんが、2012年の「社会貢献活動しながわ」で出会った縁あって、昨年何回か出張お掃除にうかがっています。

私は2回目の参加となりました。参加隊員は2名と少なかったのですが、清掃フォーマーの加藤さん(*)ほかのボランティアの皆様とともに楽しく清掃することができました。昨年も参加していたため、所々で声をかけていただきとても嬉しかったです。清掃を通して、少しでも鎌倉の地域の皆様とも繋がれたらと思います。鎌倉路地フェスタという、住民の皆様だけで作り上げる素晴らしいイベントに来年もぜひ参加したいです。

鎌倉清掃を通して感じたことは、全体的にゴミが少ないということです。10時頃の小町通りは、ほとんどゴミがありませんでした。そこからは、毎日お店の方たちが綺麗にしているのだろろと感ずることができました。しかし、お昼に再び訪れた時はゴミが塵取りいっぱいになってしまいました。鎌倉はそこに住む地域の方たちの意識だけでは綺麗になりません。観光にくる一人一人に鎌倉は綺麗な街（を保とうとしている）ということを知って欲しいです。そして、少しでも自分の出したゴミについてどうしたらいいか考えてもらいたいです。

◆ 小町通りでお店の方と交流



◆ 鶴岡八幡宮でお参り



◆ 清掃ボランティアの皆様と一緒に (後列中央右：加藤さん・左：並木)



第8回鎌倉路地

フェスタチラシ

(*)鎌倉路地フェスタとは.....

2006年から始まった「鎌倉路地フェスタ」は、今年で8回目を迎えます。春の10日間、「アート」「路地」「鎌倉らしさ」「暮らし」...をテーマにした催しをおこないます。

(HPからの引用：<http://roji-kamakura.net/>)

(*)NPO法人一心一（いっしんよこいち）代表：加藤壮章さん

<http://news.kanaloco.jp/localnews/article/1112300005/>

平成25年5月16日

清泉女子大学 五反田綺麗にし隊 並木里紗（記者NO.100103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年05月21日

日焼け止めの活用

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月10日

紫外線の強い時期になってきました。

私たちが快適な生活を送るために普及している冷蔵庫やエアコンですが、そこに使われていたフロンが、オゾン層を破壊して紫外線の増加を招き、白内障や皮膚ガンなど、私たちの健康に悪影響を及ぼす結果となりました。ただし、今は環境に悪い影響を及ぼさない機器の導入が進められているようです。

私たちの健康を自分で守るためにも、日焼け止めの活用は大切です。

街には日焼け止め商品が沢山並んでいます。皮膚のダメージは避けたいけれど

「PA」「SPF」など難しそうな表示があつて戸惑っていると、お店の薬剤師さんが優しく解説してくださいました。紫外線A波（5. 6月ピーク）を防ぐのが「PA」で、今年は特に強力な+が4つもある商品が出現している。「SPF」は紫外線B波（7. 8月ピーク）を抑制するもので指標50までであるという。

買い物や散歩程度で皮膚を守るには「PA」+++、「SPF」は34くらいで十分だと話される。低刺激性、やさしい敏感肌にいいようだ。活用の仕方は、たっぷり塗り、時々塗りなおす、過信しない事が大事だと聞く。早速日頃の対策として実践している。



平成25年6月1日

環境記者 K (NO.120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月10日

「環境展 一見の価値」

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月12日

2013年5月21～24日、ビックサイトで「環境展」が開催されていて出かけました。

バイオマス（有機性廃棄物処理）、環境ビジネス、ECOプラスチック、防災減災、再資源化の各コーナーと、同時に地球温暖化防止展も開催されており、かなりの規模で展開されていました。中でもうれしい事に、品川区のブースが会場のほぼ中央に8社まとめて出展されていました（写真左）。サタコ社の従来機対比50%削減ホットスタッフmini（デリバリーのピザをアツアツで届ける）（写真右）、日進中央社の断熱革命「GAINA」（省エネ断絶セラミック）、鶴賀電機社の熱中症予防の暑さ指数測定器、放射線量率表示パネルなどがあり、どれを見てもこれからの日本を元気にする、環境を考えさせられるいいもので力強さを感じてきました。



平成25年5月23日

環境記者 K (NO. 120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月12日

みどりと花のボランティア活動

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月14日

6月11日（火）午後3時から約50分間、関生花店の関恵之助さんの指導の下、東京サ
ラヤの社員4名が、品川区の「みどりと花のボランティア」活動を実施いたしま
したのでご報告いたします。場所は山手通り沿いの聖蹟公園です。
冬に植えた花が枯れましたので秋までもつビオラやヒヤクニチソウに植え替えま
した。

植替え作業中に通行人から「綺麗ね」と言われ、つい力が入りました。
色鮮やかに花壇が生まれ変わりましたので通勤途中にでもご覧ください。

「みどりと花のボランティア」とは、緑ゆたかな花のあるまちづくりを進めるため
に、品川区立公園・児童遊園・道路などの維持管理や花壇の手入などをするボラン
ティアの活動です。

みどりや花とふれあいながら、きれいなまちづくりに貢献することはもちろん、環
境保全にもつながる活動で、私どもは積極的に進めて行きたいと思っています。
植替えの準備をしています。枯れた草花や雑草を抜いて花壇を整えます。



色の配置や花同士の間隔なども考えながら植えていきます。



完成に近づきやや疲れ気味。結構疲れます・・・

雨が心配でしたが、降ることもなく無事花植え完了！お疲れ様でした。



植え替え後完成写真



平成25年6月11日
小野文義 (記者NO. 090107)

カテゴリ : 平成25年度
投稿日 : 2013年06月14日

「生活空間の音」について

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月19日

我々を取り巻く生活環境での快音と騒音について所感を述べたいと思います。

快音とは、騒音とは、何だろうか。

音を感じ取る人それぞれ、その人の諸生活環境の状況（いろいろ、神経質な気分等）によって快音・騒音が左右されますが、昨今の世の中、偏った風潮がまかり通っていないでしょうか。

●事例

「うるさい」・・・

- ・公園での夏の子供たちの花火禁止（大人たちの目線ではないですか）
- ・公園で遊ぶ子供たちの元気な声
- ・鶏の朝鳴く声「コケッコウ」（夜遅く午前様の方の睡眠妨害）
- ・けたたましい音楽を聴く（これを快音とする人）
- ・カラスや犬の鳴き声
- ・祭礼時の山車の太鼓の音

「もともとうるさい」・・・

- ・工事現場の音
- ・自動車やオートバイの排気音
- ・街頭宣伝

●山登りと安全と環境保護、若い登山案内人の独り言

<6月10日、尾瀬のアプローチ道で案内人が話していた時の内容です>

日本のハイカーが山で事故に遭遇した時考え方は、事故があれば他人の責任を探す。こんな山道を作った人間が悪い、保証しろ、だそうです。

自分は、悪くないとした基本的な考えを持たれているそうです。

山道には危険な個所が必ずあることを認識したうえで、自然を肌で感じてほしいと言っていました。

富士山が世界遺産に認定される一方、入山料を徴収するとした案が取りざたされています。案内人の彼は、5000円になれば登山しないとっていました。

どうも1000円の協力金となるようですね。

平成25年6月17日

中西義治（記者NO. 060108）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月19日

「花交差点の仲間たち」春の植栽

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月21日

日時：平成25年6月9日（日）9：00～11：00

参加者：77名

天候にも恵まれ大勢のボランティアが集合、皆さんの手際よい作業で短時間に無事終えることができました。

二、三のマンションで、植え込み作業が楽にできるよう前日に水やりなど準備工夫しています。

昨年と同じ花苗ですが、可愛らしい花々が花壇に並び夏から秋まで楽しめる大森海岸2丁目花ロードが出来上がりました。10月まで花を楽しむには、日々の手入れ（水やりや枯れた花の摘み取り）がかかせません。

水やりは朝晩の涼しい時間帯に作業を行うようにしています。



今回植えた花5種類！



サルビア【赤・ブルー】



メランポジューム



日日草【ピンク・白】



ペンタス【ピンク・白】



マリーゴールド【黄・オレンジ】

平成25年6月9日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月21日

私の散歩道を探そう

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月26日

超高層ビル群と化した大崎駅周辺の発展は、目を見張る勢いだ。都市再生ビジョンを掲げて動き出しているこの町は、私が住み始めた35年前と比較すると明らかに未来都市の様相を呈し始めている。

空を見上げればクレーン車が覆いかぶさりそうになって見える。小さな町工場はどうしたのかな。地域の繋がりはどうなるのかな。などと思いながらヒートアイランド対策のひとつとして造られた風と緑の散歩道を辿ってみる。ビルの森に森林浴はないが、根付き始めた草木は深緑になり、色鮮やかな花々も咲き乱れている。涼しい風が通り抜けた。癒しの散歩道として大いに利用しなければと思う。

大崎駅西ロシンクパーク、ソニービル裏手



桔梗の花



紫陽花

平成25年6月19日

茂呂まゆみ（記者NO.130103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月26日

目黒川の川遊び

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月28日

目黒川は、春には満開の桜並木が、冬にはLEDのイルミネーションが、私たちの目を楽しませてくれます。品川浦の船宿さんたちも、台船と呼ばれる屋根のない船を用意して川遊びへ誘っています。写真は船清さんのドリーム号です。品川浦には他にも数台、台船があるそうです。6月23日のスーパームーン（月と地球が一年で最接近する日）に乗船する機会を得たのですが、残念ながら雨のため屋根のある船に変更となりました。月は見えませんでした。



品川区環境活動推進委員より「打ち水大作戦しながわ2013」のお知らせです。実施期間は7月23日（大暑）より8月23日（処暑）まで。本年度から一斉打ち水イベントに替えて、各地域での自主的打ち水への支援活動へ進化いたします。打ち水用品の貸し出しをいたします。詳しくは7月7日の品川区ホームページまたは7月21日の「広報しながわ」をご覧ください。

平成25年6月25日

勝山宏則（記者NO.060204）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年06月28日

「東親会・町会の美化活動」

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月01日

東親会は東海道東側の埋立地に出来た町内会の一つで、東品川3丁目と4丁目を担当しています。品川最大の町内会は5000世帯1万人を擁し、地域内には中層・高層マンションが立ち並び、品川シーサイド駅を中心としたオフィス街などがあります。交通の利便性から子供・若者・高齢者も多いエリアとなっています。

東親会には28人の役員がいて、その中に環境部があります。今回その環境部のYさんにお会いして東親会の環境関連の話をお聞きすることが出来ました。

「ゴミの無い住みよい街づくり」を目指したいと、年4回町内美化清掃を行っていますとの事でした。出来るだけ親子での参加を呼びかけ、毎回30人から40人くらいが参加します。

3～4グループに分かれ、東親会の名入上着を着て約1時間、PRをしながら城南第二小学校、交通公園付近の清掃活動をしているとの話でした。特にマンションとマンションのつなぎの部分（隙間）の清掃をしているそうです。以前は粗大ごみの放棄が多かったとの事ですが、この頃は減少したもののまだ吸殻、弁当の殻、ペットボトル・缶の放棄は多いとのことでした。

エコクッキングの講習や、スケルトンのゴミ収集車とタイアップしたイベントなどもしたことがあり、今後は大気汚染や原子力関係の講演会なども考えていきたいとのことでした。

やはり町会の方々の意識は街づくりの基本であり、多くの人に参加して活動も活発になり環境も整うと思われそうです。



美化活動していた時の写真です

平成25年6月22日

環境記者 K (NO.120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月01日

空気が汚れて

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月01日

会社玄関前の花壇に植えてある柚子の樹です。
近寄ってみると葉に黒いものがついています。



多分、車の油煙などがついたのだと思います。汚れを洗い落とすと葉が光合成ができなかったのか、白く跡が残っています。



そんな葉にもナミアゲハの幼虫が・・・ちょっと元気がないようにみえます。
去年あたりから葉の汚れが目立ってきています。



平成25年6月28日

小野文義（記者NO. 090107）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月01日

梅雨のしながわ区民公園

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月01日

梅雨時期の晴れ間はいかにもこれから暑い日が続くと言わんばかりに公園の緑の間に光を差し込んでいるこの頃です。しながわ区民公園もアジサイの花が樹林の間に可憐にさきほこりその光を受け止めています。あれだけ多くの毛虫がいたのに今静かにサナギになって蛾になり成虫になるのをじっと待っている時期でもあります。我々もプール開催とか樹木の木陰作りに追われている毎日です。



平成25年6月28日

丸山 均（記者NO. 090105）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月01日

ネジバナ

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月03日

仕事の関係で芝生の手入れを行っています。芝生にたくさんのネジバナが咲きました。今年は200本以上花を咲かせました。都会の中で野生状態で育つ唯一のランと思っています。

ネジバナの仲間で奄美大島以南の南国諸島などに分布するナンゴクネジバナは、鹿児島県でレッドリストの絶滅危惧種II類（VU）の指定を受けています。ただし、写真のネジバナはそうではありません。

昔は大井ふ頭内でも見かけたのですが、やっと見つける事が出来ました。

きれいになった京浜運河の観察は今も続けていますが、都立大井ふ頭中央海浜公園だけでは観察対象生物、現象に限られてしまい、海の中がよく見えない状態が続いています。

大井北ふ頭橋では色々な貝の出現状況が観察でき、砂浜の動きや水の流れが感じられます。東京湾の三番瀬、相模湾側の逗子、鎌倉の海岸は直接見る事は出来ませんが、これらの海の様子は感じる事ができます。しかし中央海浜公園回りだけでは見えなくなって来ていて悩ましい状況です。



大井埠頭内で咲いていたネジバナ

平成25年6月30日

青野良平（記者NO.070103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月03日

京浜運河中央公園のヤマトシジミ

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月03日

都立大井ふ頭中央海浜公園の砂浜では4,5年前からヤマトシジミが見られ始めています。ヤマトシジミと言えば日本海の宍道湖のヤマトシジミが有名ですが、同じ種類です。

中央海浜公園でも年々少しずつ生息数は増加して来ているのが、観察を継続していて分かって来ました。まだまだシジミ採りとしての対象とされるまでの数までにはいってはいません。生息数の少ない貝で安定した定着ではないと思いますので、そとそのままにして数が増えるのを待つて貰いたいと思っています。



中央海浜公園のヤマトシジミとカガミガイ（左上の白い貝）

平成25年6月26日

青野良平（記者NO.070103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月03日

畑のトレンド

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月03日

さあこれは何でしょう？

私が通っているオーガニック農園で見つけました。

化学肥料に頼らない作物作りにはやっぱり身近にあったほうがいいものです。

何でしょう？



横からみると



そうです！生ごみ処理、堆肥作りが出来るスピコンポスターです。

アメリカ製で180ℓ直径60センチほどの容器です。家庭から出る生ごみや枯れ葉、落ち葉などを利用して、堆肥をつくる容器です。台座にローラーがついているので混ぜ合わせる際や移動などが簡単にできます。私たちは、現在バケツ容器を使用して堆肥づくりをしているのでまだ実際に利用した事はありませんが、トレンド・コンポスター！とは農場長の弁。これは電気式ではないので品川区では助成対象にはなりません、自治体によっては購入する際の助成が受けられるとの事でした。震災以降自給農を目指す方々が増加しているようで、それにもなってコンポスト使用率もアップしていると聞きました。使い慣れるまでが大変ですがごみ減量と再利用などの視点から自分にとって使い勝手がいいファッション性がある容器を見つけて実践してみると楽しく始められると思います。

平成25年6月30日

茂呂まゆみ（記者NO.130103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月03日

花交差点の仲間たち「花ロード祭り」

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月03日

花交差点の仲間たちの「花ロード祭り」を6月23日に開催しました。ラベンダークラフトづくりは今年で第9回となります。スティックは摘み取ったばかりのラベンダー使ってリボンで編みます。ポプリ袋はラベンダーの花実を乾燥したものを詰めて小袋に。ポストカードは色紙を切り抜いたものなどを貼って作りました。七夕の飾りつけはしながわ区民公園から頂戴した笹にそれぞれ願いごとを書いて飾りつけました。

5歳～80歳まで世代をこえて楽しむことができ、ラベンダーが地域のコミュニティづくりに役立っています。

「花交差点の仲間たち」

花ロード祭り

=ラベンダークラフトづくり&七夕飾り=

日時:2013年6月23日(日)10時~12時
場所:ライオンズマンション大森エントランス
主催:花交差点の仲間たち
参加者:70名



開島運河でラベンダー摘み取り(6/22)



まずは受付!
「どの色がいいかな〜!」



作品

ラベンダークラフトづくり

ラベンダースティック作りにも奮闘、皆無心に・・・!!



5歳女子の夢が短冊に!
「カメラマンになってみんなの
たくさん笑顔を書きたい」
☆星に願いを(〇)!!

ポストカード・七夕飾り



** 5歳~80歳まで世代をこえて楽しんだ
ラベンダー祭りでした! **



数株のラベンダーから植えた仲間の輪!
みんなの笑顔(〇)宝物です!(スタッフ一同)

平成25年7月1日

真壁美枝子 (記者NO.080103)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月03日

安心安全の担保には

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月04日

農薬をできるだけ避けた産物がほしい！という消費者は多い。

もちろん市場に出回っている産物は国の基準以内のものだから安全には違いないが、自分の基準としてはできるだけ使用していないものを選択する！と購入の際の基準にしているのだ。近頃私は、オーガニック野菜育て方講座で無農薬野菜の栽培を始めた。30人ほどがグループに分かれ講義を聴き、そして実践作業に入る。ここでは、化学合成の肥料や農薬等は一切使用しない。農地を傷めず、作物にも優しい永続的な農法である。もちろん種は、在来種で世代を越えて子孫をつないでいくことを目指す。今や種の世界はF1ばかりで非常に貴重な価値ある種を使用しているのだ。

さてこの畑には滅多に見る事が出来ない優れたものが活躍している。収穫までの期間ではあるが、とても頼もしいガードマン達を紹介しよう

●イエローカード（サッカーみたいでしょ）正式の名はムシナックスという。昔よく見かけたハエ取りテープと同じ仕組みで粘着性のテープ。アブラムシなどに有効と言うが実際いろいろな虫が張り付いていた。ナスやトマト、キュウリなどに有効。



●光る空き缶ビール

シルバーの空き缶がいい。アブラムシなどが寄ってこない。アブラナ科の野菜に有効。

割りばしを使い作物のそばに立てる



●シルバーテープ

虫はどちらかと言うとギンギラシルバーが好きではないらしい。台所などで使用する水漏れ防止用テープを使う。葉の裏側に反射するように作物の根元に張ると有効



●ストチュウトラップ

聞きなれない言葉だがその名の通りに“酢”と“焼酎”と砂糖をまぜてペットボトルに入れて畑に立てる。ペットボトルには、害虫が入るように切り込みを入れる。蛾やいろいろな虫が匂いにつられて入ってくる。卵をうみつける前の成虫時に捕獲するのだ。



私たちは、小規模の農園作業ではあるが水やりや害虫対策はとても気になり苦労している。

これが市場を相手にするとなるといかに労力と知恵と経験を伴うかが想像できる。まして自然の成り行き次第。安心安全な野菜をできれば無農薬野菜をなどと簡単には口にはできないと実感している。

平成25年7月2日

茂呂まゆみ（記者NO.130103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月04日

第21回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2013年07月19日

平成25年7月5日(金)、第21回環境記者情報交換会が開催されました。

第一部は、インタメディア代表の佐山吉孝様からお話を伺いました。メインテーマは「まちは続くよどこまでも～その先が知りたくなって～」で、第一回の今回は「六郷を渡って川崎宿へ」というサブテーマでお話をさせていただきました。

【佐山さん】



第二部は環境記者の皆さんの活動紹介です。

【中西さん】

我々を取り巻く生活環境での快音と騒音について、昨今の世の中では偏った風潮がまかり通っていないかと思えます。公園で遊ぶ子ども達の声がうるさいという苦情があります。公園で花火禁止、遊具を取り除く、などの対処は大人たちの目線ではないでしょうか。また、山登りの安全と環境保護についても考えます。尾瀬の案内人に話を聞きました。ハイカーが山で事故に遭遇した時、こんな山道を作った人間が悪い、保証しろという話になる、山道には危険な個所が必ずあることを認識したうえで自然を肌で感じてほしい、とおっしゃっていました。バイオ菌を使ってし尿処理をする試みがありますが、バイオ菌には相性があってなかなかうまくいかないようです。

【志賀さん】

平塚二丁目町会は「花いっぱい事業」に取り組んで5年目を迎えています。種まきから花の開花、種の収穫、咲き終わった植栽を土壌に戻し収穫した種を蒔くという「循環型ECO」仕上げの年になります。植木鉢の土を回収し、生ゴミや枯れた植木を乾燥機にかけ、黒土に混ぜて京陽公園で熟成、数回攪拌し、約6ヶ月後に古い土は栄養豊富な土に生まれ変わり、町会が各家庭に貸与している「ECOプランター」用の土として配布しています。町会では4月と6月に花の講習会を開催しました。夏休みには町会会館を使って1泊2日の子どもお泊り会をし、子ども達はザリガニ釣りを体験します。

【真壁さん】

私たち「花交差点の仲間たち」は、7棟のマンションが一緒に歩道の清掃を始めて10年目になります。年に2回の植栽と、月例の活動をしています。6月9日に春の植栽をしました。10月まで花を楽しむには、日々の手入れ（水やりや枯れた花の摘み取り）がかかせません。10年前に舗道にラベンダーを植え始めました。6月の「花ロード祭り」でラベンダークラフトづくりを始めて今年で9回目となります。5歳～80歳まで世代をこえて楽しむことができ、ラベンダーが地域のコミュニティづくりに役立っています。



【小野さん】

東京サラヤの社員4名で、品川区の「みどりと花のボランティア」活動を実施しました。場所は山手通り沿いの聖蹟公園です。みどりや花とふれあいながら、きれいなまちづくりに貢献することはもちろん、環境保全にもつながる活動で、私どもは積極的に進めて行きたいと思っています。会社玄関前の花壇に植えてある柚子の樹の葉を近寄って見てみると葉に黒いものがついていました。多分、車の油煙などがついたのだと思います。汚れを洗い落とすと葉が光合成ができなかったのか、白く跡が残っていました。去年あたりから葉の汚れが目立ってきていて気になっています。

【辻本さん】

今年は暑くなるのが早かったので、5月頃から氷が売っていて氷屋さんがフル稼働だということです。その分電気代が高くなりいかに省エネをするかということになります。急に減らすのは難しいので小さな積み重ねで省エネしていくのがよいでしょう。6月は昨年に比べて最高気温が2度、最低気温が3度高かったそうです。

【塚さん】

毎年庭の水鉢やビオトープで蛙が産卵します。いつも酸欠状態になるくらい生まれるのに今年は少ないです。どうしてでしょうか。今年も大崎周辺まちづくり協議会で大崎駅周辺にマリーゴールド3500本を植え込みました。中学生も参加し、おもしろい植込みを作ってくれました。これからの季節は水やりが大変です。湧水を引いて利用しています。



【原田さん】

野菜コーディネーターの勉強を通じて環境問題に興味を持ちました。野菜クズの有効利用について報告できたらと思います。また、佐渡に関心を持っています。佐渡は世界農業遺産(GIAHS)に日本で初めて認定されて、現在は世界遺産登録を目指しています。

【海さん】

環境記者としてどのようなテーマを記事にするのがよいか試行錯誤しながら書いています。環境とマスクの効用、植物の栄養剤、日焼け止めの活用、ビッグサイトで行われた環境展、東親会・町会の美化活動について記事を書いてみました。

【茂呂さん】

エコねっと・しながわというグループで「台所からの環境問題」ということでエコたわし作りなどの活動をしています。最近三鷹にてオーガニック農業実践を始めました。ここにはたくさんの報告材料がありますのでおいおいお伝えしたいと思っています。



今回は9名の記者の皆さんが出席されました。それぞれのグループ、または個人で意欲的に活動していらっしゃる様子や環境問題についての所見などについてお話していただきました。原田さん、海さん、茂呂さんは今回が初めての参加です。新しい分野の話題を提供してくださり、環境記者の活動範囲が一層広がりました。和気藹々とした雰囲気の中、意見や情報の交換が活発に行われ、充実した情報交換会になりました。

志賀さんの記事に登場した水やり不要のECOプランターについて問合せがあり、HPに掲載した記事を読んで下さっている方々の存在を改めて感じました。記者の皆さんの経験や意見を記事として積極的に発信していき、より多くの方と情報を共有していけたらと思います。

終会后、真壁さんが「花交差点の仲間たち」の活動で作成されたラベンダークラフトを皆さんで手に取り、心地よい香りを楽しみました。

カテゴリ : ◆情報交換会

投稿日 : 2013年07月19日

▲環境情報活動センター
トップページへ戻る

みんなのエコ広場

環境学習講座 ※終了

過去の講座を紹介します

ECOトピックス

おすすめ情報

区民環境記者レポート

◆環境記者について*募集終了

◆情報交換会

令和3年度

令和2年度

令和元年度

平成30年度

平成29年度

平成28年度

平成27年度

平成26年度

平成25年度

平成24年度

平成23年度

平成22年度

平成21年度

平成20年度

平成19年度

平成18年度

リサイクルショップリボン

区民環境記者レポート

記者の募集は終了いたしました。レポートの閲覧は令和4年6月までとなっております。以降、一部の情報は品川区環境課のHPにてアーカイブとして閲覧可能となる予定です。(区民環境記者レポートのトップへ戻る)

« 第21回環境記者情報交換会

» 毎日書道展

虫との遭遇

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月21日

恒例の歩道花壇の植替え時（6月）に他の花と一緒に日日草を植えました。「日日草は暑さに強く、多少手入れ無でも日々咲き誇る花たち」と私たちはそう思っていました。



他の花より元気が無いのは、水やり過湿による根腐れではと思いながら・・・



一ヶ月後の7月6日月例時には葉は枯れている状態になりました。枯れた花を抜いたら、我が物顔で気持ち悪いほど無数に繁殖、よく見たらダンゴ虫でした。

さあ～たいへん！ 早めに気づいていたら・・・！

きれいな花壇に戻すのに殺虫剤は何がよいのか？

日日草が壊滅状態→ダンゴ虫と根腐れが同時発生！？→殺虫剤散布



リンク

[このブログを購読する](#)

当サイトはSSL対応です



当サイトでは、お客様の個人情報に係わる通信に、SSL暗号化技術を使用しております。詳細は、上の画像をクリックしてご確認ください。



早めの梅雨明けがあり、人間は汗をかきすぎ熱中症になる人もいて、冷房・扇風機の冷気の中にこもりがちです。私たちが安穏としているうち、虫たちはこの暑さに土の中へ避難、日日草は食い荒らされ枯れていました

10年間歩道花壇の手入れをしていますが、この様に虫が大発生したのは初めてです。

今春毛虫が異常発生したようですが、連日の高温多湿が小さな虫たちにも影響しているのでしょうか。

平成25年7月16日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月21日

« 第21回環境記者情報交換会

» 毎日書道展

毎日書道展

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月24日

第65回 毎日書道展が東京都美術館で開催されていました。

35,000点の出品があり、我が国最大の書道展といわれています。

「伝統の書から最先端の現代書まであらゆる分野を結集する総合展」と鑑賞ガイドに書いてあります。

私の友人は入選して展示されていたので見に行ってきました。

漢字部◆類の部門での作品です。

「楽意在泉石」（らくいせんせきにあり）

意味は、自分が楽しいと思う事は、自然の景色にある。喜び悲しみは、自然の物の中にある。

何か禅問答的、哲学的ですが、環境問題に通じる作品に感じてしまいました。環境記者の取材の根底にあるもののように思えます。

<入選 書>



平成25年7月21日

環境記者 K (NO.120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月24日

平成25年7月、わが家の周り

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年07月24日

大崎4丁目のわが家周辺の近況についてメモをしました。

7月18日、大崎駅周辺街づくり協議会で3,500株のマリーゴールドの植栽を行いました。芳水小学校の生徒さん、大崎中学校バレー部のメンバー、地域企業の方達と一緒に植えました。



夏になるとヤモリが数匹、勝手口のドアにきます。

ヤモリは私たちの生活区近くに棲み、その指先には特殊な器官があって壁やガラス窓などを上ってゆきますので私たちの目に触れることもあります。害虫をたべてくれる有益な動物で、家を守るとされています。私はかわいいと思いますが、そう思わない人もいらっしゃると思います。



大崎3丁目のマンション駐車場にあったツバメの巣が、子どもたちのいたずらで壊されました。巣立ちの練習をしていた子ツバメは、壊された後、親たちと飛び回っていたので安堵しました。



壊された後のツバメの巣 (○内)
「警告」の内容

壊された残骸

「警告」の内容は下

去る7月7日(日) 昼12時10分ごろ、小学校高学年と思われる子供が駐車場に侵入し、巣にいたヒナに向かって投石を繰り返し、巣だけでなく、施設を損傷させたことが防犯カメラの映像として残っています。(ツバメは無事でした) これは極めて残虐性の高い行為です。

ツバメは野生鳥類のなかでも、法律により捕獲が禁止され、保護鳥として指定されています。今後 当施設の.....

と続きます。

小学生には難しい文ですが 張り出されてよかったかと思います。

平成25年7月22日

環境記者 高塚 純江 (記者NO.100101)

カテゴリ : 平成25年度

投稿日 : 2013年07月24日

「港区のエコプラザ／夏祭り」

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年08月08日

港区立エコプラザに出かけてきました。JR浜松町駅近くにあります。

1階は多目的に使われ、3階は会議用スペースが2つあり環境保全に関わる活動に使えるようになっています。5周年記念という夏祭り(「エコdeみなとくエコプラザ夏祭り～5周年記念」8/3、8/4)で親子連れが多く賑わっていました。

「間伐材を切ってコースターを作ろう」「地球温暖化を理解し毎日の暮らしをエコに」「外国の方に知ってほしい日本のエコ」他の展示も興味深く拝見。

マルシェ市場で有機野菜・食材の販売会も盛況でした。

プラザでは①低炭素社会 ②自然共生型社会 ③循環型社会の3つのkeywordを基に年間計画が立てられ、8月は毎月曜日に映画会を開催し、自然環境を学ぶことが出来る様にしているとの事でした。

品川区と同様にエコプラザを基地として情報発信という役割を担っていることが分かったひと時でした。

<エコプラザ夏祭り>



エコプラザパンフレット



平成25年8月5日

環境記者 K (NO.120104)

<1階フロア>



8月スケジュール



カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年08月08日

しながわ花海道の昆虫（虫との遭遇2）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年08月08日

勝島運河の土手2区画を借り、しながわ花海道プロジェクト指定の花（春は菜の花、秋はコスモス）と、ボランティア活動のイベントで使用するラベンダーを育てています。

8月3日早朝、ラベンダーの花を摘んだ後の剪定に久しぶりにしながわ花海道へ、バッタやジャコウアゲハの幼虫をたくさん見つけました。



◆バッタ

刈り取った後のラベンダーを触ると一斉に飛び跳ねます。写真に撮れないのが残念！
ラベンダーの葉の色に同化し保護色に・・・
写真の中にあるバッタを確認するのは難しいです。

◆せみ

声はすれども探すのがたいへん！
せみの鳴き声を聞くと「夏か〜！」と季節の変わり目を感じながら、「うわぁ・・・暑いなぁ〜・・・」と



◆ジャコウアゲハの幼虫

しながわ花海道は、ジャコウアゲハの食草ウマノズクサを植え保護繁殖しています。羽化する前の幼虫が、せっせと餌を食べているところを見ることができました。



もうすぐ羽化しビロードのような羽で飛ぶ姿が見られそうです。

幼虫は今一好きにはなれませんが、蝶の舞う姿は優雅です。

平成25年8月3日 真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年08月08日

宇宙3兄弟（アサガオ・トマト・メダカ）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年08月13日

●宇宙アサガオ

2010年スペースシャトル「ディスカバリー号」で15日間宇宙に行ったアサガオの種のことです。YAC（日本宇宙少年団：宇宙教育活動を推進する）のご好意によりいただきました。

5月に、熟成土壌に種を蒔き、苗を育て、各家庭に配布し咲いています。

写真◆町会掲示板の両脇に、空に向かって芽が伸びている宇宙アサガオ

写真◆鉢植えの宇宙アサガオ



●宇宙トマト

1984年NASAが、スペースシャトル「チャレンジャー号」に長期間暴露装置を組み込んだ人工衛星LDEFを搭載、人工衛星にとまとの種を収納して打ち上げました。5年9ヶ月後の1990年コロンビア号にて回収されました。

「天文サークル星空の会」のご好意によりいただきました。

もうすぐ大きい鉢に植え替えです。



●宇宙メダカ

宇宙飛行士向井千秋さんと一緒に地球を236周したメダカ（雄コスモ・雌未来）です。宇宙メダカ研究会のご好意により、そのこどもたちを、雄はコスモ○世・雌は未来△世として、前述内容含む送り状を添えていただきました。



平成25年7月31日
志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ: 平成25年度

投稿日: 2013年08月13日

ハクビシンの夜の散歩

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年08月20日

8月7日の夜中（午前1時ごろ）、西中延3丁目の住宅街にハクビシンが夜の散歩をしていました。

さまざまな環境変化により動物の行動も変化し、外来種であるハクビシンが夜な夜な

出没する世の中になりました。

たまたまカメラを暗闇にかざし、シャッターを切りました。

大きさはタヌキの3倍ぐらいで、柵や電線の上を素早く鋭敏に動きます。咬み付かれないようにとの注意が必要です。

その姿をとらえたので、ご報告いたします。



以下、Wikipediaによると

ハクビシン（白鼻芯）は、ネコ目（食肉目）ジャコウネコ科に属する動物で、その名の通り、額から鼻にかけて白い線があることが特徴で、夜行性で民家の軒下・屋根裏などに棲み着くこともあるとのこと。



平成25年8月9日

中西義治(記者NO.060108)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年08月20日

しながわ区民公園の秋

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年09月30日

しながわ区民公園の秋の表情が少しずつ顔を出し始めてきました。

「暑さ寒さも彼岸まで」とよく申しますが、彼岸花が咲き整ってきました、それも赤だけでなく白・黄色の仲間が増えてきました。又、花木も、ミカン類・ザクロまたまたレモンが2個大きな実になっています。

台風でドングリが落ちてしまったかと思っていましたが、シタタカにもまだがんばっているものもいました。



彼岸花（白）



彼岸花（黄色）



彼岸花（赤）



ザクロの実



夏ミカンの実



レモンの実



レモンの実



ミカンの実



ドンダリの実

平成25年9月19日
丸山 均 (記者NO. 090105)

カテゴリ : 平成25年度
投稿日 : 2013年09月30日

初秋の散歩コース（しながわ区民公園）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月01日

9月23日秋分の日、子供たちの声が響いている「しながわ区民公園」内を散歩しました。

秋の気配を感じながら一周2kmのコースです。

温暖化が進み日本の四季が危ぶまれているようですが、先人たちの「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通り、朝夕の涼しさはもとより、公園は実りの秋、草花も夏から秋へと季節は秋模様になっていました。色とりどりの樹木や草花の変化があり、園内の景色に夏の疲れが癒される散歩でした。

◆実りの秋

ザクロ・柿・姫リンゴ・柑橘類など、完熟はちょっと先になりそう！



◆どんぐり

紅葉にはまだ早いですが、どんぐりの実がたくさん落ちていました。

どんぐりを拾っている沖縄宮古島出身の方に会いました。

宮古島にはこの様な「どんぐり」が無いので、拾い集めて小学校の教材用に送るそうです。



◆樹木の実など

ハナズオウ・ハナミズキ・コニファー・メタセコイヤ・・・など



◆メタセコイヤ（杉科の一種）

木の下に松笠前の実が落ちていました。

台風の影響でしょうか？

◆秋の草花

ヒガンバナ・ハギ・ケイトウ・・・など



平成25年9月26日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月01日

秋の風情

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月02日

今朝、眠気眼でラジオのスイッチをいれた途端に“・・・で、すすきの開花を観測しました。・・・でも観測しました。”と各地のすすき開花のお知らせをする気象予報士の声が耳に入ってきました。あらっ、すすきにも開花宣言というものがあるのだと初めて知ったのです。

さて今夏は、猛暑続きでした。東京都心の最低気温30.4度という暑い一日を体験しました。消防庁によると6月から8月の三ヶ月間熱中症で救急搬送された人はなんと5万5596人、都道府県別では東京都が最も多く4280人ということでした。

これからは年々真夏日や猛暑日が増加していきだろうと紙面で読んだことがあります。植物にとっても変化が起こってくるのではないのでしょうか。毎日のように水やりに出かけた体験農園の人参が、何度種を蒔き直しても発芽しませんでした。深山こかぶも茶豆も然り。固定種だから発芽率が悪いと言いますが、どうなのでしょう。確かに天候に左右されたことも一理あると思っています。

いつの間にか秋を感じる朝晩となり、四季のある国に住む幸せを思います。「風情」も日本古来からある表現だそうです、秋にすすきはよく似合います。さっそく大崎周辺でいち早く秋の風情を醸し出しているスポットをご紹介します。ビルの合間にも秋は来る。



大崎駅南口シンクパーク裏手の木立から
平成25年9月22日
茂呂まゆみ（記者NO.130103）



夏の終わりの夕焼け空

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月02日

緑のカーテンで、猛暑をしのぎました

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月03日

平塚二丁目町会・花と緑の部では、4月にゴーヤの種を小さいビニールの鉢（花屋さんで売っている苗の入っている黒い容器）に入れた熟成土壌に蒔き、苗づくりをし、6月末に町会員に配りました。

今年の夏は猛暑日が多く、長い夏でしたが、緑のカーテンはその暑さを多少和らげてくれました。ご覧の写真は町会役員宅ですが、見事に成長した緑のカーテンです。これはわずか根元苗3本から育ったものです。

思いのほか広がった緑のカーテンには、実ったゴーヤの数も多く、皆さんにおすそ分けをしました。



平成25年9月25日

志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月03日

DHLジャパンの清掃活動

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月08日

海岸通りに面した東品川で、黄色と赤のロゴ看板を掲げたDHLは目立つ存在のビルです。そのDHLのロゴ入りTシャツを着た一団が、道路清掃を行っているのをバスの中から見受けました。早速取材の申し入れを行なったところ広報の安藤弥寿子さんと話が出来ましたので報告したいと思います。

DHLグループの本社はドイツにあり、ここ品川はその一部門であるDHLエクスプレスの日本本社であるということ。220もの国を結ぶネットワークがあり、ドア・ツー・ドアでスピーディーに航空貨物輸送を行っているとの事です。主に企業を対象に翌日か翌々日には世界各地へ着実に配送できているという高水準の国際輸送。

企業責任を果たすことは企業の持続的発展のために不可欠と考え、「環境保護」「災害時の緊急支援」「教育活動への支援」の3つのテーマに基づいて社会貢献活動を世界各地で展開しているとのこと。その一環として、全世界のDHL職員が9月に一斉に社会貢献活動に取り組む「グローバルボランティアデー」を実施。その期間中、グループの日本全国にある拠点から2,500名が参加し、近所の清掃活動などを行っているとの説明がありました。



たまたま私が遭遇した日は、ランチタイムに50名が参加して清掃している場面でした。タバコや菓子の袋、ペットボトルや缶などを拾い集めるのですが、他部署の人と交流も図れて良い機会になっているようです。6年目を迎え、今後さらに地域への還元につながるボランティア活動が推進されると思いました。



平成25年10月7日

環境記者 K (NO.120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月08日

自然の中のローカルな食材の利用

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月15日

たまたま、我が家の夏ミカンの枝に山芋の弦がからみつき、「むかご」（下写真）が実りました。
これを炊き込みご飯として食してみました。身近の食材、意外に行けるものと認識いたしました。



紫色の大きい方はアケビです



Wikipedia より

Wikipediaによると

「むかご（零余子）とは植物の栄養繁殖器官のひとつ。主として地上部に生じるものをいい、離脱後に新たな植物体となる。／食材として単に『むかご』と呼ぶ場合、一般にはヤマノイモ・ナガイモなど山芋類のむかごを指す」と書かれています。

また、「塩ゆでする、煎る、米と一緒に炊き込むなどの調理法がある。零余子飯（むかごめし）は晩秋・生活の季語である。」だそうです。私がおいしくいただく事が出来たのも、まさにこの時期だからですね。

一方、「アキバ博士の『食の知恵と文化』（J Aグループ福岡）」には、むかごの役割が次のように書かれています。

「むかごは地面に落ちると翌年の春に芽を出して、ヤマノイモとして育つ。つまり、子孫を残すためのものです。ヤマノイモは種でも増えるけど、軽くてあまり養分を持っていない。だから、むかごに比べると成長が少し遅い。その代わりに、風に飛ばされて遠くで芽を出すことができる。それぞれ特徴があるんですね。

むかごを作る植物はほかにもあり、例えばオニユリは葉の付け根に、黒いむかごを1つずつ付ける。このむかごを食用にすることはあまりないけれど、むかごから育ったオニユリの球根は、ホクホクとしたユリネとしておいしく食べられる。

野生の植物って、いろいろな方法で子孫を残そうとしているのです。」



(C)こぐれ けんじろう・画

身近に育った植物も、ちょっと調べてみると面白いものですね。

平成25年10月8日

中西義治(記者NO.060108)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月15日

そばの花

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月17日

池上線・大崎広小路と戸越銀座の間の線路の土手にそばの花が咲いていましたが、秋になると東急電鉄が土手の草刈りをし、今（10月13日）はもう見られませんが、

すすきも咲きますが、刈られてしまいます。あまり広がり過ぎても困るのですね。刈られても翌年またきれいな白い花を咲かせます。近所の方が数年前に蒔いたのが、毎年私たちを楽しませてくれます。

そばの花と判る方は少ないようですので、知人に「珍しいからぜひ見に行って」とお声掛けをしています。



幅3メートルくらいに広がっています。

平成25年10月13日

環境記者 塚 純江（記者NO.100101）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月17日

「食品工場向け省エネセミナー」開催

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月17日

9月27日、東京サラヤは「食品工場向け省エネセミナー」を開催いたしました。

参加企業は大規模事業者対象で、熱心にお聞きくださり、良いセミナーが開催できたと思います。

プログラムは

- ◆クールネット東京・・・食品工場省エネ対策事例
- ◆東京サラヤ・・・効果的な照明プランについて
- ◆日比谷総合設備・・・エネルギー見える化で運用改善
- ◆大塚商会・・・LEDで節電



講座風景

未来的で実験的な内容は極力省き、現在できる技術と対策について、事例を交えながら講演をすすめるというコンセプトのセミナーでした。

東京サラヤからは、若輩ながら辻本が照明プランのプレゼンを50分させていただきました。

印象としては、革新的な対策というのではない状況で、本当に地道な対策を積み上げて各企業は省エネに取り組んでいます。

その中で、実践的な省エネ対策という事で参加された企業が、各プログラムの中から一つでも持って帰ろうという気迫を感じながら進行していった印象を受けました。

第2回の要望のお声も頂戴しており、プレッシャーも感じながら次回を企画していきたいと思いました。

平成25年10月3日

辻本喜律（記者NO. 110101）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月17日

今年の夏は暑かったので

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月18日

今夏の猛暑のせいか、私が勤務している会社の花壇の花や葉がずいぶん傷みました。

いつもならこの花壇で観察できるアゲハチョウの幼虫も、今年は見ることができませんでした。

気候が年々変化し、過ごしやすい時期が短く少なくなっているのではないかと思う日が多くなってきています。



猛暑のせいで檸檬の実が日焼けしてしまいました。

葉も日焼けして、ところどころ枯れてます。

平成24年10月17日

小野文義（記者NO. 090107）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月18日

早朝の虹

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月22日

自然災害の恐怖と自然現象の驚異を目の当たりにした10月17日朝のレポートです。

8時頃、10年に一度の猛烈な台風と言われた台風26号の風雨がようやく落ち着いたようなので、出かける前にベランダの様子を見ようとドアを開けると北西の空に低く虹がかかっていました。いろいろな気象条件に影響されるのでしょうか灰色おびた空にかかる虹は、いつもの綺麗な虹ではなくとても不安な気持ちにさせられるような見たこともないような虹でした。ちょうど大島町に甚大な被害！との報道を聞いたばかりでしたのでとても暗い気持ちでシャッターを押しました。



平成25年10月21日

茂呂まゆみ（記者NO.130103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月22日

「花交差点の仲間たち」秋の植栽

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月31日

日時：平成25年10月27日（日）9：00～11：00

参加者： 62名

南大井2丁目（大森海岸駅前～しながわ水族館入口）歩道花壇の植替えを行いました。

当日は、のろのろ台風の雨風を心配しましたが、台風一過の植栽日和、62名のボランティアが集合しました。

夏の間よく咲いてくれた花たちにさよならし、一週間前に腐葉土を混ぜ込んでふかふかの土にしています。

土が扱いやすくなっているのと、手際よい作業で短時間に終わることができました。

植えた花苗はパンジー、ビオラ、プリムラ、デージー、マーガレットです。

来春5月まできれいな花を楽しむために、日常の管理（水やり、枯れた花摘み、雑草駆除）を継続することをボランティアにお願いしています。



植替えを待つ花たち



開始前に全員集合！



レイアウトこれでよし！



一斉に花の植え替え開始！

平成25年10月29日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月31日

ふくしまオーガニックフェスタ2013に出展します

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年10月31日

11月23日（土）に福島県郡山市のビッグパレットで行われる「ふくしまオーガニックフェスタ2013」に私も農業者として出展します。主催は、ふくしまオーガニックフェスタ実行委員会と福島県生活協同組合連合会です。

東日本大震災、福島第1原発事故から2年半が過ぎ、この間、福島県の農業は様々な苦難を味わってきました。また、消費者の方々にとっても自分の食というものについて考えざるを得ない日々であったと思います。放射能被害と風評被害という現実の中で、福島県の農業者と全国の消費者との間に食の安全をめぐる分断が発生したのもまた事実です。

しかし、福島県の農業者は、消費者との交流と対話を通じて「食の産地ふくしま」を取り戻すため、日々努力してきました。

原発再稼働が叫ばれ、またオリンピック2020年東京開催が決まる中で、福島県の農業者が置かれている状況はどうなっているのか、またどうなっていくのかが日々忘れられがちとなっている今日。このふくしまオーガニックフェスタ2013は、食の安全を至上のものとしてきた福島県の農業者たちが、消費者の安心を担うために精魂込めて作ってきた福島県産農産物を目の前にしながら、農業者と消費者が交流と対話を行うための場を提供するものです。

出展の基準はかなり厳しいと言えます。農産物では、有機栽培やこれから有機栽培にしていくという減農薬・減化学肥料栽培以上の農産物を出展基準としています。遺伝子組み換え技術を使ったものは認めていません。

加工食品や調理品でも主たる原材料が有機栽培、または減農薬・減化学肥料栽培以上であって遺伝子組み換え技術不使用の農産物であることや主原材料の原産地は福島県産であることです。畜産物や乳製品についても同様の基準が課せられます。

そして、事前に出展物の栽培内容、栽培方法、原材料、原産地等をフェスタ実行委員が書類確認し、出展者は栽培内容等を記載した「栽培カード」のパネルをブースに表示し、来場者に出展物の説明をします。来場者は説明を聞いて納得した上で購入してもらいます。「栽培カード」パネルには、作目名と化学肥料、農薬と認証の有無、放射性物質の測定結果及び検出限界値の表示がなされます。

このフェスタが、福島県の農業はもちろん、人々の失われたコミュニティの再生につながり、人間らしい暮らしを取り戻す大きな一歩となればと思い、私も採れたての生シイタケをはじめ、きのご塩漬、乾シイタケ、マイタケ味噌漬けなどを出展します。品川区で環境の大切さを知り、守り育てている皆さんのご理解、ご支援をお願いいたします。

福島県南会津郡南会津町針生字駒戸山1725-73

ファーム ふきのとうの舎 新居 邦明

開催期日 2013年11月23日(土) 10:00~17:00

開催場所 ビッグパレットふくしま 福島県郡山市南2-52

電話 024-947-8010

バス JR郡山駅より約15分 車 郡山南I.C.より約15分

主な開催内容

1. 東京発！農と食の新しい未来を探るツアー（1泊2日）
2. メインイベント 民謡ライブ、人形劇、フラダンスショー、シンポジウム「放射能と暮らしを考える」
3. パネル展示・健康と放射能の相談所（農業者と大学研究者の放射能低減対策と復興パネル展示）
4. オーガニックマーケット（有機農業者及び有機をめざす生産者の農産物・加工

品の出展)

5. コミュニティカフェ (シェフによる新鮮オーガニックな野菜を使ったオリジナルメニューを味わう)
6. ミニシアター
7. 希望の種をまく路上ライブ
8. トークショー

耕そう・ふくしま。農ライフ

食べよう・ふくしま。食フェス

オーガニックフェスタ2013

11/23(土)
10:00~16:00
ビッグパレットふくしま

入場無料

子どもたちの未来と食と農の再生のために

オーガニックマーケット
産直野菜 加工品 雑貨など
有機農業者および有機をめざす生産者さんからの直売ブースです。野菜やジャム・スイーツからTシャツ・石けん・書籍まで福島中から大集合!

コミュニティカフェ
食べて、話して、楽しめる
山梨シェフの新鮮オーガニック野菜を使用したオリジナルメニューを味わえます!

イベント & キッズスペース
長話ライブ・人形劇・餅つき
路上ライブやミニシアターなど見て、聞いて、参加してみよう!

◆シンポジウム ◆健康相談 ◆パネル展示 ◆東京祭! 農と食の新しい未来を探るツアー

*主催:ふくしまオーガニックフェスタ2013実行委員会、福島県生活協同組合連合会(福島県「消費者と生産者等の情報・交流促進事業」受託事業者)
*主催:NPO法人福島県有機農業ネットワーク
*後援:福島県、郡山市、地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会、国立大学法人福島大学つくしまふくしま未来支援センター、福島県消費者ネットワーク、NHK 福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、株式会社福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、福島県町村、福島県友好財団、日本有機農業研究会
*協力団体:福島県農業総合センター有機農業推進室、二本松有機農業研究会、NPO法人 ゆうきの里農和ふるさとづくり協議会、ふくしまオルガン管下北院、NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)、(株)GNS/NPO法人 Leaf、(株)山形食料工業、スローフード福島、福島県農協、NPO法人 秀明自然療法ネットワーク(SMN)、一般社団法人グリーンオйлプロジェクト、和田や合同会社、(有)福光企画研究所、(株)JVC、NPO法人移動図書館プロジェクト、アグリSCM ふくしま、NPO法人 CRMS 中核放射能測定所福島、連携いなか生協交流協議会、JCF 被災地障がい者支援センター、せから屋

平成25年10月30日

新居 邦明 (記者NO.100105)

カテゴリ: 平成25年度

投稿日: 2013年10月31日

北ふ頭橋付近と中央海浜公園で観られる貝

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月11日

今年の2月、ある事情があって38年間観察を続けていた大井北ふ頭橋付近の砂浜での貝の観察を止めて、都立大井ふ頭中央海浜公園の砂浜で観察をしました。やはり場所の違いというか、こちらは砂浜にすむ生き物がほとんどで、北ふ頭橋付近の様に多くの種類の貝は観られず、また砂浜の動きから感じる「海の子カラ（太平洋から押し寄せる海の動き）」も殆ど感じずに6ヶ月間観てきました。一方、この間観察していなかった北ふ頭橋付近の砂浜が5m程移動していたようで、こちらでは「海の子カラ」を感じることができ、再び北ふ頭橋付近の砂浜の観察を続けることにしました。今年は2月から7月の間、北ふ頭橋付近で見られるはずの色々な種類の貝を見逃してしまいましたので、来年はしっかりと観察したいと思っています。この「太平洋の子カラ」が強い時には北ふ頭橋付近で色々な貝が出現し、逗子や鎌倉の海も同じ様に色々な貝が出現しています、まるで連動して同じ変化をしている状況が北ふ頭橋では感じられるのですが、中央海浜公園ではその変化を殆ど感じられませんでした。

最近の京浜運河の水はとてもきれいになっています。夏も昔の様に赤潮のような茶色っぽい色もあまり見かけなくなりました。39年間京浜運河を観て来て、外海から直接東京湾奥に流れ込む海の道があって、その流れの勢いがある周期を持って強くなったり弱くなったりして揺らいでいる事が分かりかけて来ました。最近はその揺らぎの勢いが少し強くなっているようで、近年では外海からきれいな水が少し強く流れ込んで来ていて、運河の水はきれいになっている感じです。



砂浜から見る京浜運河内の水。水の中の様子も良く見えます。

平成25年11月5日

青野良平（記者NO.070103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月11日

“清泉祭”で‘五反田綺麗にし隊’などの活動を紹介しました

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月20日

‘五反田綺麗にし隊(*)’は、11月2・3日に清泉女子大学行われた“清泉祭”に参加しました。今回は、‘五反田綺麗にし隊’が所属している福祉環境委員会と“清泉祭”の様子についてご報告します。

私たちが所属している福祉委員会は、例年通り“ふっかん(**)カフェ”を開きました。



販売様子



‘パン工場しなふくプチレーブ’紹介
(品川総合福祉センター経営のパン屋さん)

カフェでは毎年、‘パン工場しなふくプチレーブ’から商品を仕入れています。その他に、紅茶とコーヒーも販売しました。どの商品もオススメです。部員の中ではチョコガレットが人気となっています！（毎年この時期を楽しみにしている子もいたりします^^*）

飲食スペースに加え、団体の紹介コーナーを設けました。

毎年4月に行われる‘教科書市’です。使わなくなった教科書を回収し、安く売ることによって環境と学生のお財布に優しい活動となっています。学生からは無料で教科書を集めるため、売り上げは全て寄付に回しています。



また、今年度は学舎の改修工事があったため部室の清掃を行いました。その際、まだタグのついたズボンがたくさん見つかったため、綺麗に洗濯し寄付することにしました。

その他にも、使い終わったテレホンカードの回収なども行っています。



古着・テレホンカードの寄付



夏休みに学校近くのコインランドリーに向かう部員たち！

みなさんのご協力のおかげで“ふっかんカフェ”の商品は完売となりました。ありがとうございました。今年の清泉祭はお楽しみいただけただけでしょうか。この記事をお読みになって興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、ぜひ来年足を運んでみてください。福祉環境委員会は、現在の活動に加え、さらに別の活動にも挑戦したいと考えています。今後ともよろしくお祈りします。

(*)“五反田綺麗にし隊”は福祉環境委員会に所属していますが、実際の活動は個々で行っています。

(**)“ふっかん”とは、福祉環境委員会を親しみやすくするために考えられた愛称です。

平成25年11月14日

清泉女子大学 五反田綺麗にし隊 並木里紗 (記者NO.100103)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月20日

菜の花の種まき（しながわ花海道）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月20日

11月4日しながわ花街道の登録会員が集まり菜の花の種まきです。
小雨交じりの空模様「花交差点の仲間たち」4名も参加、2ブースの種まきをしました。
土壌が柔らかく作業がとても楽だったことと、前日からの雨で水やりが不要となり助かりました。（この花壇は、水道栓がなく遠くから水を運ぶのがたいへんです。）



発芽新鮮野菜は美味しいらしく、ハトやスズメたちの餌になってしまいます。
様々なネットや面白い対策がされています。



コスモスの根を逆さまに・・・

◆11月11日一週間後の発芽状況を確認、可愛らしい双葉が顔を出していました。



平成25年11月14日
真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月20日

アザミの多様性とタイアザミ

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月20日

国立科学博物館の企画展「日本のアザミの秘密」に行ってきました。

(残念ながら企画展は11月10日までで現在は終了しています)

<http://www.kahaku.go.jp/event/2013/09azami/>

アザミは日本全国に分布し、日本の中だけでも150種類以上も見ついているそうです。中には絶滅が危惧されている種もあるようです。アザミは分類することが難しく、たくさん写真がありましたが、私には見分けられそうにありませんでした。附属自然教育園へ観察にいった際にタイアザミを観察したことがあったのでタイアザミを探してみたのですが、なかなか見つけれず、やっと見つけた所で、実はタイアザミ（大薊）はトネアザミの別名だったということがわかりました。名前からタイから来た帰化植物だと思っていたのですが違ったようです。またこのタイアザミは大薊（タイケイ）とも呼ばれ止血作用や化膿性の炎症を抑える効果があるとして漢方薬に用いられることがあるようです。



タイアザミ（2013/8/31 国立科学博物館附属自然教育園にて撮影）

平成25年11月15日

坂手寛（記者NO.120102）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月20日

「歩きタバコはやめましょう」

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月22日

東品川にある交通公園の近くで「歩きタバコはやめましょう」というキャンペーンタスキを掛けた2人の方に出会いました。2人の男性にお話を伺ったので報告したいと思います。品川区から委託され品川区シルバー人材センターで就業されているお二人は、新馬場駅周辺と品川シーサイド駅周辺を担当して、「歩きタバコはやめましょう」の声掛け運動をし、区内の美化に力を入れているそうです。道路ガードレールには「品川区/歩行禁煙・ポイ捨て禁止」の横断幕があるのを見かけた方も多いいと思います。しかし、吸い殻のポイ捨ては、その掲示の真ん前にも多くあり、3時間のパトロールで450本くらいの吸い殻があると聞きました。特に朝のポイ捨ては、かなり減少したものの、いまだにポイ捨てされている現状があります。啓蒙活動なので願いの口調で対応し、言い争いにならないように心掛けていると話されます。1日6時間、午前・午後3時間（月・水・金）のパトロールで毎回持参の袋は吸い殻とゴミで一杯になってしまうそうです。区内全体では25班あり、91名の方が品川区の主要な駅周辺（25駅）で活動しているとの事です。パトロールしている方々は、喫煙マナーの向上と地域美化のため、ただただお願いを繰り返し、時には、を配布して植込みに捨てる行為に対し注意喚起をしたりしているとの事です。また、喫煙場所などを聞かれたり、教えたりしているという話です。地道で根気のいるお仕事で本当にお疲れ様という気持ちでお話を伺いました。



集められたタバコの吸い殻



配布携帯灰皿



朝のパトロール

平成25年11月9日

環境記者 K (NO.120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月22日

武蔵野台地から品川をみる

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月26日

数年前、環境学習のフィールドワークに参加して以来、毎年訪れている日立中央研究所は中央線国分寺駅から徒歩10分ほどの住宅街にある。春と秋の年二回一般開放される庭園には、春は桜、秋は紅葉と訪問者を楽しませてくれる豊かな自然が残され、敷地面積としては東京ドームの約5倍ほどだという。100種以上の樹木や野生植物が群生し、生き物たちが集まり、野鳥が飛来し多様な生態系が、創立1942年以来守られ、古き武蔵野の面影を今に残す庭園になっている。



園内の紅葉

ここが注目される理由は、別にある。国分寺崖線という歴史的地形形成である。武蔵野台地に始まり関東平野に及ぶ広大な台地形成への関心や数万年からの多摩川の流路変化によって創り出された地形などがことに興味深く、海沿いにある我が品川にまで思いを馳せることができるのだ。

国分寺崖線は、長い年月をかけて多摩川が作り出した河岸段丘の崖の連なりの中で、国分寺から等々力溪谷まで約28キロ続き、その崖線沿いには各所で湧水を見ることができる。研究所の構内にもあちこちに湧水があり、湧き出た水は大池に貯められる。そして野川の源流となって20キロほどを下り多摩川へと注がれていく。



崖線（はげ）からの湧水
が流れを作り大池に向かう



崖線（はげ）からの湧水



大池から出て行く湧水は野川となって下っていく 園内の湧水が貯められた大池の秋模様

園内ではあちこちから鳥のさえずりが聞こえ、ジャングルのような木立からは木漏れ日や紅葉が降りそそいで心身ともに癒されながら、将来的にもずっと保存され維持されていくようお願い気持ちでいっぱいになった。

今年の紅葉は少し遅れているようだったが、10月桜やヤマツツジの花が賑わいに加わり秋晴れの碧空が大池に映えて多くの訪問者を楽しませていた。

平成25年11月22日

茂呂まゆみ（記者NO.130103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月26日

第22回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2013年11月29日

平成25年11月1日(金)、第22回環境記者情報交換会が開催されました。

第1部では環境記者の皆さんに活動紹介をしていただきました。

【中西さん】

西中延3丁目の住宅街でハクビシンに遭遇しました。空き家に住みついたりしているようです。さまざまな環境変化により動物の行動も変化し、外来種であるハクビシンが夜な夜な出没する世の中になりました。

我が家の夏ミカンの枝に山芋の弦がからみつき、「山芋の子孫 むかご」が実りました。これを炊き込みご飯として、食してみました。身近の食材、意外に行けるものと認識いたしました。

【志賀さん】

平塚二丁目町会・花と緑の部では、4月にゴーヤの種を熟成土壌に蒔き、苗づくりをし、6月末に町会員に配りました。今年の夏は猛暑日が多く長い夏でしたが、ゴーヤが育って見事な緑のカーテンになりその暑さを多少和らげてくれました。以前お話しした宇宙アサガオ、宇宙トマト、宇宙メダカは順調に生育しています。

【青野さん】

6ヶ月間観察していなかった北ふ頭橋付近の砂浜が5m程移動していたようで、「海の子カラ（太平洋から押し寄せる海の動き）」を感じることができました。最近の京浜運河の水はとてもきれいになっています。39年間京浜運河を観て来て、外海から直接東京湾奥に流れ込む海の道があって、近年では外海からきれいな水が少し強く流れ込んで来ていて、運河の水はきれいになっている感じです。

【真壁さん】

10月末に「花交差点の仲間たち」で南大井2丁目歩道花壇の植替えをしました。この活動も10年目になります。半年に一度植込みをして、次回の植込みをする半年後までいかにしてもたせるか工夫をしています。歩道花壇の柵（木製）が腐って歯抜け状態になってしまい、代替の柵と車道側に土が流れてしまうため、適した土留めはないか検討中ですが、費用捻出が難しくなかなか良い案が見つかりません。



【小野さん】

今夏の猛暑のせいか、会社の花壇の花や葉がずいぶん傷み、例年ならこの花壇で観察できるアゲハチョウの幼虫も、見ることはできませんでした。気候が年々変化し、過ごしやすい時期が短く少なくなっているのではないのでしょうか。強い日差しに加え、今年は東京では5月から9月までに116回のゲリラ豪雨があったそうです。トマトは水に当たるとだめになるので、実る前に落ちてしまうということが起きています。

11月にセンターで「LEDの灯籠作り」の講座を受け持ちます。LEDの特性については照明士の辻本さんが説明します。

【辻本さん】

弊社は、大規模事業者対象に「食品工場向け省エネセミナー」を開催しました。未来的で実験的な内容は極力省き、現在できる技術と対策について事例を交えながら講演をすすめるというコンセプトのセミナーでした。革新的な対策というのはない

状況で、各企業は地道な対策を積み上げて省エネに取り組んでいます。担当しますセンターの講座「LEDの灯籠作り」では、家庭用にLEDを買うときどのようなところに注意すればよいかお話ししたいと思います。

【西川さん】

国道沿いの植込みや公園の美化に興味を持っています。個々に所轄が違い管理が別々であるため、スムーズにいていない面があるようです。民間の力を利用して地域で団結してよい方向に持って行けないものかと思います。

【海さん】

東品川にある交通公園の近くで「歩きタバコはやめましょう」の声掛け運動をしていらっしゃる二人の男性にお話を伺いました。お二人は品川区から委託され品川区シルバー人材センターで就業し、午前・午後3時間ずつの1日6時間、週に3日間のパトロールをされています。半日のパトロールで450本くらいの吸殻を拾うそうです。区内全体で91名の方が品川区の主要な25の駅周辺で活動されています。喫煙マナーの向上と地域美化のため、ただただお願いを繰り返し、時には、を配布して植込みに捨てる行為に対し注意喚起をしたりしているとのこと。地道で根気のいるお仕事で本当にお疲れ様という気持ちです。



第2部は、インタメディア代表の佐山吉孝様からお話を伺いました。メインテーマは「まちは続くよどこまでも～その先が知りたくなって～」で、第2回の今回は「目黒不動から九品仏浄真寺へ」というサブテーマでお話をいただきました。



今回は、初参加の西川さんをはじめ8名の記者の皆さんが出席されました。それぞれのグループ、または個人で意欲的に活動していらっしゃる様子や興味をもっていらっしゃる事象についてご報告いただきました。和気藹々とした雰囲気の中、意見や情報の交換が活発に行われ、充実した情報交換会になりました。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2013年11月29日

会社花壇で生きていまーす

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月29日

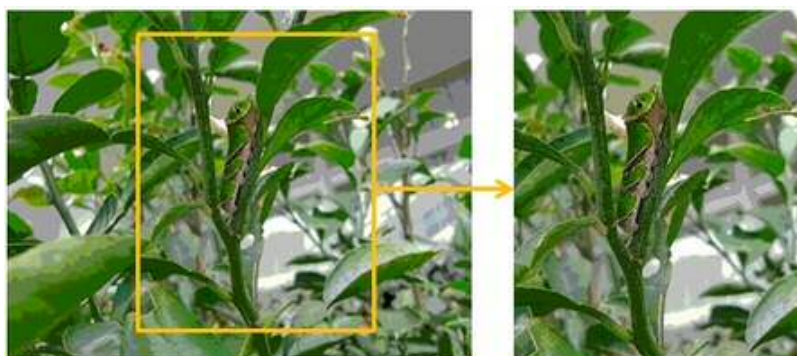
私の勤務する会社の花壇でナミアゲハの幼虫を見つけました。

朝の気温 8℃という日もあるのに、少しずつ成長しているナミアゲハの幼虫。

冷たい風にあたらぬ様、葉に隠れてサナギになれるよう、静かにその時を待っています。

ナミアゲハは春に成虫になるものと、夏に成虫になるものがあり、この幼虫は春型なのでしょう。こんなに寒いのに元気ですね。（11月25日撮影）

現在、花壇には幼虫の天敵であるアシナガバチやスズメバチがいないので、多分、無事サナギになれると思い観察しています。



こちらは6月下旬に撮影したサナギです。夏には成虫になって飛び回ったことでしょう。

平成25年11月27日

小野文義（記者NO. 090107）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年11月29日

「飲泉による効能」

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年12月03日

〈温泉の化学～化学的アプローチによりその神秘を探る〉というテーマの公開講座が都立産業技術高専・品川キャンパスで11月10日・17日にありました。ものづくり工学科の池田宏准教授の2回の講座です。主として「温泉分析書」の効能の読み方の理解と温泉を化学的に調製するという内容でした。

温泉成分に含まれるイオンについて、温泉の定義、温泉の泉質についてなどなど・・・続きます。中でも興味深かったのは「～温泉の飲泉における効能～」でした。環境省により飲泉における飲用許容量が示されている飲用利用基準についての話がありました。基準の適応対象となる温泉水の成分の種類は、ひ素、銅、フッ素、鉛、水銀、遊離炭酸の6種あり其々飲用許容量が決められています。16歳以上の大人が基準で、15歳以下についてはさらに区分されて示されています。湯治の為温泉を飲用しようとする場合の飲用量は、上記6種の成分の総摂取量が決められているというものです。湯治でなくとも温泉場に行くと飲泉できる場がよく見受けられますが、検査を受けている話で少し安心致しました。また最近、硫黄泉飲泉の経口糖負荷試験への影響が検証されているという事の話もあり大変興味深く意義のある時間を過ごしました。

平成25年度 オープンカレッジ（公開講座）

温泉の化学 ～化学的アプローチにより その神秘を探る～

第1回

開催日時：平成25年11月10日（日）10:00～12:30（第1回）
11月17日（日）10:00～12:30（第2回）

開催場所：東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス
物理化学実験講義室・化学実験室（西棟4階）

担当講師：本校准教授 池田 宏

◆東京都立産業技術高等専門学校・品川区共催◆

1. はじめに



最近の温泉ブームにより温泉地に出かけることが多いと思います。この写真は、ドイツの温泉地として有名なヴィースバーデンの飲泉場です。ここでは、自由に飲泉が楽しめることから、多くの観光客が飲泉による効能を求めために訪ねます。

一方、日本の温泉地では、温泉施設の脱衣所やロビーに必ず掲示してある「温泉分析書」を見たことがあると思います。ここには温泉の効能についてのさまざまな情報が隠されています。本講座では、この「温泉分析書」からそれぞれの温泉特有の効能を読み取るために化学的な知識を学び、また実際の温泉に近い成分の入浴剤を調製することにより、より温泉の効果を感じ取ることができます。もちろん、初めての方にも楽しんでいただける内容です。

2. 温泉分析書を見る

受講生のみなさんが温泉地に行かれて、必ず目にするものが温泉分析書です。浴場の入り口に温泉分析書の掲示がないと、どんな温泉なのか理解することができません。最初に、この講座ではこの温泉分析書の読み方について理解していきます。温泉分析書には次頁の事項を記載することが温泉法施行規則第10条の規定により規定されています。この規定に基づいて、温泉分析書が温泉地の浴場に掲示されています。

一例として示すのは、担当講師が日頃からお世話になっている神奈川県厚木市にある「かぶと湯温泉 山水楼」における実際の温泉分析書です。

平成25年11月20日

環境記者 K (NO.120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年12月03日

食と環境の料理講座を終えて

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年12月10日

11月28日（木）、講師に料理研究家阿瀬紀生子先生を迎え、品川区立総合区民会館きゅりあん料理講習室で、“旬を味わう使い切りクッキング”を開催しました。参加者は16名。世田谷、渋谷、目黒、江東など区外からの参加もあり、年齢層も子育てから団塊の世代と幅広く、食と環境を重層的に発信していきたいという思いからすると、とても良かったと思います。

メニューは、おやき2種（大根のおやき、きのこのおやき）、白菜とりんごの彩サラダ、かぼちゃと小松菜の味噌ミルクスープそしておまけのメニューとして大根の皮や人参の皮などでつくるケチャップきんぴら。

“おやき”といえば長野の野沢菜おやきが有名ですが、各地域にはそれぞれに郷土料理としてのおやきがあり、中身を変えていくことで“私のおやき”が出来上がります。また余った食材などの利用メニューに、保存食にと、粉さえあれば楽しみながら作れます。

今回のテーマは、“旬産旬消”。旬の野菜や果物、魚介類などを知り、選んで消費することは価格の安さ、美味さ、栄養価などのメリットばかりでなく、環境面においてもできる限りエネルギーを使わないで生産する事につながり、生産者にとってもメリットがあることを確認し合うことができました。

皆さん初対面とは思えないほどに手際よく準備が進み、おやきを焼く香ばしさが立ち込めて来る頃には、和気あいあいとした家族のように盛り上がっていました。また千葉県旭市の農家から旬の野菜を20種近く送っていただきました。実際に手にとって旬を実感し、種類の多さに驚きながら、日々の買い物にはもっと気配りが必要だと改めて思いました。



講師の手つきにみんな真剣



出来上がったおやき



石毛農園から届いた旬の野菜

平成25年12月2日

茂呂まゆみ（記者NO.130103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日 : 2013年12月10日

福島県の被災地、被災者の今

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年12月11日

11月に延べ8日間、福島県の原発事故被災地を回りました。行った主な所は、会津若松市門田町米農家、福島市笹木野梨農家、福島市松川町「カーちゃんのカ・プロジェクト協議会」、南相馬市小高区米農家、相馬郡飯館村、双葉郡富岡町などで

す。印象としてお伝えしたいのは、以下の三つです。一つは、事故の影響は今も強く、多くの人々の苦しみが事故当時と変わらず続いていることです。

二つは、事故が地域や友人、親子、夫婦の繋がりをずたずたに壊してしまったことです。

三つは、そうした中で、コミュニティの再生に向けた、福島で生きていくための努力が少しずつですが、確かなものとなってきていることです。

福島市や郡山市でも日常の放射線量は東京の10倍。飯館村や富岡町などでは、東京の100倍の所もあり、人どころか、鳥も虫もない、木が枯れてきた所もありました。

福島県の今は、私たちの生活や自然・環境への向き合い方を不断に問いかけています。多くの方が福島県を訪れ、これから何十年にわたって災禍が続く福島を忘れないでほしいと思います。



双葉郡富岡町の帰宅困難地域夜の森地区
線量は毎時3.06 マイクロシーベルト

平成25年11月28日

新居崎邦明（記者NO.100105）



富岡町 JR 常磐線富岡駅
線量は毎時3.98 マイクロシーベルト

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2013年12月11日

環境問題は、どこかでつながる！

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年01月17日

寒い日が続きますが格好だけは颯爽として歩きたいものだと思います、里山的な趣を探して歩いています。そんな中昨年散歩道として紹介した大崎西口高層ビル裏手一体を思い出しました。ある企業との遭遇です。既にレポート報告にもありますが、昨年12月、国際展示場ビッグサイトで開催された第17回エコプロダクツを見学した際のことです。

到底一日では回り切ることができないほど広い展示会場には、700あまりの企業や団体が出展して賑わっていました。そろそろ帰ろうと出口に向かう途中生物多様性ゾーンの一部に、黄色みを帯びた野草らしき植物が入った箱が三つ並んでいるのが目に入ってきました。周囲のブースに比べるとそれほど目立ったアピールをしているとは思えませんが、里山的な趣が気になり展頭に立つ女性スタッフに伺ってみました。

この企業は、在来種一筋50年余、“幸せ感じる 緑のまちづくり”を基本理念として地域にある里山植物を資源とした地場産物を推し進めている福島の種苗園でした。平成14年に環境省が策定した「生物多様性のための国土区分」に対応して、その区分に添った植物を採取して独自の植生マット（アゼターフ）を考案してエコビジネスとしているとのこと。特に首都東京に向けて都市化と自然バランスを失いつつある暮らしをサポートし、武蔵野の再生を実現するために癒しの空間の提供とその場を利用した環境教育の推進等に力を入れているとのことでした。もうすでに生物多様性復元の有効性が認められ、評価された事業もいくつかあるとのこと。

そのひとつがなんと大崎駅西口高層ビル裏手一体（シンクパークやソニービル周辺）の植生群事業ですとの説明にびっくり！里山的な風情を醸しだし、草花の季節感や自然の味わいは、その地域に相応する環境的な配慮や工夫が存在していたのだと改めて実感し、都会の生物多様性復元に向け努力する企業との遭遇に感謝した次第。ちなみに“生物多様性につながる企業のみどり100選”企業立地部門に選定されたのは2007年とのことでした。



2013年エコプロダクツ会場入口



生物多様性保全のための国土区分マップ



植生マット (アゼターフ)



生物多様性ゾーンの一角にて

一月半ば、厳冬の北風は冷たく、寒々しい散歩道になっていますが、もう水仙の花が咲き、小さな蕾をつけた木々も見られます。福島で頑張っている小さな会社ですとのことでしたが、エールを送りながら歩きたいと思います。
有限会社仲田種苗園

<http://www.eco-plants.net/>



植生マット (アゼターフ) 利用の風景



陽だまりに咲く水仙の花



北風の中の散歩道

平成26年1月15日
茂呂まゆみ (記者NO.130103)

カテゴリ: 平成25年度

投稿日: 2014年01月17日

聖蹟公園で花の植替えをしました

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年01月24日

1月16日（木）14：00から約1時間、聖蹟公園で花壇の花の植替えを行いました。

会社の有志を募って活動名『品川フラワーレンジャー』が行っており、品川区が推進している「みどりと花のボランティア活動」に4年前から継続参加しているものです。

今回の参加者は計5名です。

昨年暮れから今月まで、気温が低く雨が少ない乾燥した日が多く、写真の通り花壇の花もすっかり枯れている様子でした。



4.5Lゴミ袋で6袋分あった枯葉や枯れ草をとりのぞき、花を植えるために土をおこします。

用意した花は約200株です。いつもながら土を耕すのは腰に来ます。



花の植替えスタート。花の配置は、各自のセンスに任せ自由に植えます。



区よりお借りした花壇2箇所の花植えは無事完了！葉牡丹、ビオラ、パンジーなど、水をたっぷりあげました。

植え替え後、数日で花は落ち着き綺麗に咲きました。



最後に参加者の記念撮影 おつかれさまでした。



平成26年1月16日
小野文義（記者NO. 090107）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年01月24日

しながわ区民公園の春支度

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年01月30日

寒波襲来した1月15日（水）気温4℃と自宅でも震え上がるほどの寒さ、コタツでぼーと・・・そんな中、目に飛び込んできたのが樹木の上いくつも青い色。

目の焦点が合わず何をしているのか呑み込めず・・・カメラのズームでやっと納得。公園の春支度で松の木の剪定作業でした。

この時期に剪定する理由が分からなかったので、調べてみました。

成長が止まった11月から1月にかけて松の剪定・整枝の時期で、枝抜き、芽の剪定、古葉の揉みあげという作業を行います。

この時期に枝を整えることは、病虫害防除の意味でも11月頃に行う「こも巻き」同様非常に重要だそうです。

[枝抜き] 樹形を維持するために余分な位置の枝を省きます。

[芽の剪定] 芽を剪定して余分な芽を落します。

[古葉の揉みあげ] 芽の下に残った古い葉を揉み落して余分な芽が出ないようにします。



</a



高所作業はさすがプロの仕事！

このような作業があって、松はいつも緑できれいな形が保たれていますね。

平成26年1月28日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年01月30日

平成26年「花交差点の仲間たち」始動

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年01月30日

1月11日（土）9時～10時

厳しい寒さの中、南大井2丁目のボランティア39名が集合、マンション前歩道花壇の整備と大森海岸駅前歩道橋の清掃を重点に行い、平成26年の活動始めとしました。

今年も全体活動として、月例で花壇整備と歩道の清掃活動を継続してまいります。

主な活動内容

- ◆植栽（歩道花壇の植替え5月、11月）
- ◆月例（大森海岸駅前歩道橋～品川水族館までの歩道清掃及び花壇整備）
- ◆日々（花壇の手入れ）
- ◆イベント開催（6月「ハンガ」のクラフトづくり、その他親睦会）



花壇は霜柱で雑草が抜きやすくなっていました。



歩道橋の綿ゴミや汚泥を取り除きました。



平成26年1月28日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年01月30日

東京都・水道水質モニターを体験して

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月07日

2013年12月に東京都の水道水質モニターに応募した。応募が555件あり、その結果が届いたので報告したい。

東京都水道局では、水道水の安全性を確保するために、法律で基準を満たす事が定められた50項目以上について水質確認を実施しているとの事。この中から、モニターは◆残留塩素◆全硬度◆鉄の3項目について測定した。これらは、おいしい水の要件（残留塩素、全硬度、蒸発残留物、遊離炭酸、過マンガン酸カリウム消費量、臭気強度、水温）としての目安の中からであるという事であった。

東京都のおいしい水施策は、高度浄水処理、残留塩素管理などが行われており、世界に誇れるようでうれしい。しかし、我が家はどうかのだろうと気になっていた。公道までの水道管は新しくきれいでも、古いマンションで貯水槽をもつ我が家の水道は、蛇口までの給水管が古い為かなり腐食が考えられる。そこで家庭用浄水器を蛇口に設置し、ポットにも浄水器を使用している現状である。送られてきた簡易水質測定マニュアルに基づき検体を標準色で確認し水道局に提出したところ3週間後に結果がわかった。



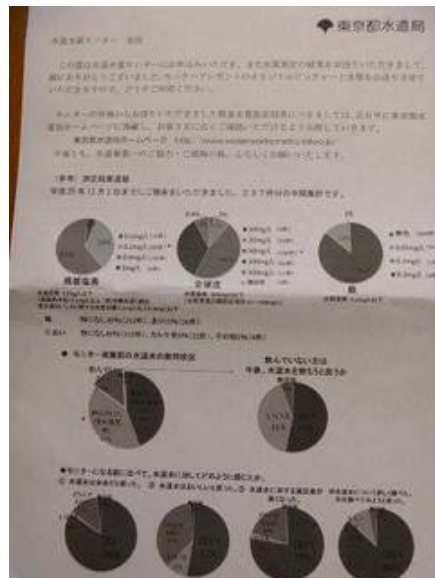
我が家の残留塩素は、0.2mg/Lで「おいしい水」とされる数値（0.1~0.4mg/Lの範囲）の中に入っていた（全モニターの31%）。なお、貯水槽水道（我が家の場合）では残留塩素が検出されることが求められている。

次に全硬度は、カルシウム・マグネシウムの含有量で300mg/L以下に設定されており、10~100mg/Lが「おいしい水」といわれている。我が家は50mg/Lであった（全モニターの42%）。

鉄は0.3mg/L以下に設定されており、これを超えると水が赤く見えたり臭気を感じ、味覚に影響があるとある。我が家は無色（全モニターの85%）であった。

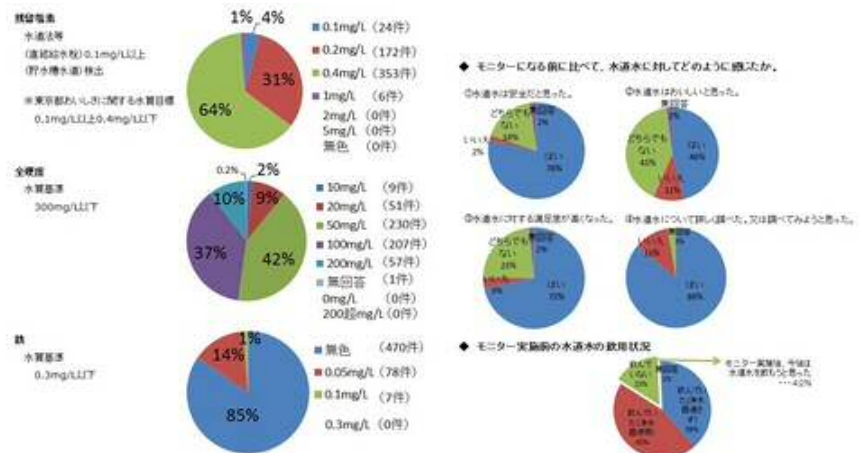
555件の測定結果速報（上記%）を見ると我が家はまずまずの範囲に入っていて一安心できた。

わが家に届いた「水道水質モニターによる簡易水質測定結果」



東京都水道局のHPに詳細が記載されている。

http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/water/w_info/m_kekka2013.html



おいしい水だけでなく体にやさしい水を求めて、今後も意見を水道局に提供しながら生活していきたい。

平成26年1月27日

環境記者 K (NO.120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月07日

自社ビルの電力使用量減少について

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月07日

最近、自社ビルの電力使用量が徐々に減ってきています。

11～12月の電力使用量合計は次の通りです。

2011年 44,000kwh

2012年 33,000kwh

2013年 31,000kwh

特に電気設備を減らしたりしていませんが、去年は2年前に比べ13,000kwh減少しました。節電効果でしょうか？

一方、11～12月2ヶ月間について（自社営業日の）東京の最高気温の平均を調べましたら、2011年に比べ2013年は東京で約0.7度上昇し、暖かかったようです。

そのために電力（暖房）使用量が少なくなったのかもしれませんが。

一昨年まで冬の電力使用量は、夏（7～8月）の電力使用量より多かったのですが、去年は逆転し夏の方が多くなりました。これは昨年夏の酷暑のせいもあるのでしょうか。

IPCC（気候変動による政府間パネル）第5次報告（「将来予測：1986～2005年を基準とした、2016～2035年の世界平均地上気温の変化は、0.3～0.7℃の間である可能性が高い」）の通り年々気温が上がり、冬からいきなり夏の気候になっていくような気がします。

今年も熱中症対策……。それより夏場は日中の営業活動ができなくなったりして……。

気候変動が加速していて大変心配です。



自社のビルです。

屋上に見える黒い部分はソーラーパネルです。（上記記事とは関係ありませんが）

平成26年2月5日

小野文義（記者NO. 090107）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月07日

遠からじ、しながわ区民公園

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

節分、立春を過ぎてまだまだ寒い日が続く今頃です。しながわ区民公園の梅の花も少し寒さを感じているのでしょうか？花の開花が鈍い様子です。でも少しずつではありますが、スイセンの花がつぼみから花開いています。また、サクラの花芽もいくぶん大きくふくらんでいる様で、春遠からじの今日この頃です。



サクラの芽



スイセンのつぼみ



梅の花(満月枝重、まんげつしだれ)

平成26年2月12日

丸山 均（記者NO. 090105）



梅の花(白牡丹 はくぼたん)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

大井海岸町会清掃パトロール

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

町会の防犯部と婦人部で月1回の清掃パトロールを行っています。

日時：平成26年1月26日(日)10時～12時

場所：品川区南大井3丁目周辺

歩道は一見きれいに見えていますが、よく見るとタバコの吸殻が目立ちます。植え込み内の見えない箇所にはビン・カン・燃えない粗大ゴミなどが捨てられています。



2mあまりのフェンス内に投げ入れられたゴミが散乱、ゴミの捨て場となっている箇所があります。

一般敷地内のため、持ち主に清掃を依頼することにしました。



大森海岸駅前歩道橋下（駅側）に大量の鳥フン発見！

歩道橋橋げたの配管の上に鳩が住みついているようです。→ 管轄の国交省にハト対策を依頼



品川区は看板などで餌を与えないように呼びかけているようですが、ペットのように餌をあげる人がいます。注意したいのですが、怖くて注意できません。

餌を与えることで繁殖力も旺盛になるようです。悪循環ですね。

鳩害対策として、私たちの出来ることは餌を与えないことだけでしょうか。

平成26年2月10日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ: 平成25年度

投稿日: 2014年02月14日

奄美大島に行って来ました

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

1月末から2月初めにかけて奄美大島に行って自然を満喫して来ました。

奄美はもう初夏の暑さで、レンタカーの中はクーラーをかけ、海岸ではTシャツ1枚でも大丈夫の気候でした。

海の観察・収集を長年続けていますが、このたびは貝の採集です。

今回10回目の奄美行きで、今迄見つけられなかった貝を今回やっと見つける事が出来ました。

又、貝砂（小さな貝と砂の混じった状態）を持って来て、実体顕微鏡で小さな貝を探します。

目的の貝が見つかるといいなと思っています。

奄美と運河とでは生息する種類は天と地との違いは有りますが、運河の打上貝の多さは奄美を上まわっています。運河は運河でいい所はたくさん有ると思っています。



奄美大島の砂浜

平成26年2月11日

青野良平（記者NO.070103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

20年ぶりの大雪

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

2月8日（土）、東京は20年ぶりの大雪（都心で26cm：戦後3番目）になりました。

この日は2つの予定が入っていましたが、中止の連絡が入りほっとしました。TVで交通機関の乱れや停電、事故などの情報があり、外出していたら帰りがたいへんだったと思います。

私の住む南大井2丁目は京急電車の沿線ですが、京急は東京電力からの電気の供給が不安定という理由から、一時全線で運転を見合わせたとの報道がありました。

→「京急が『電力供給が不安定』で運休 約4時間にわたって全線で運転見合わせ」

<http://www.j-cast.com/2014/02/10196471.html>

当日は土曜日のため、東電が電力供給量を少なくしていたのかな？

自宅で雪を眺めて過ごしました。

次の日の9日（日）は、マンション前歩道の雪かきと花壇の雪かきで、たいへんな週末となりました。

一日の雪かきで筋肉痛や腰痛、窓から眺める公園の雪景色は素敵ですが、雪と立ち向かった時、雪国の暮らしの中で、高齢者の除雪作業がどれだけたいへんなことか・・・思い知らされました。



東京の最深積雪（観測史上1～10位）

- 1位 46cm (1883/ 2/ 8)
- 2位 38cm (1945/ 2/22)
- 3位 36cm (1936/ 2/23)
- 4位 33cm (1951/ 2/15)
- 5位 31cm (1887/ 1/18)
- 6位 30cm (1969/ 3/12)
- 7位 27cm (1925/ 1/30)
- 8位 25cm (1892/ 2/19)
- 9位 23cm (1994/ 2/12)
- 10位 23cm (1968/ 2/16)

平成26年2月10日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

京浜運河と奄美大島の貝

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

1月に奄美大島に行って来ました、京浜運河と比較すると海の中の生き物の種類数は格段に違います。運河の中は汽水域のため塩分濃度が激しく変化しますが、その変化に対応出来る生き物はそう多くは有りません。

それで時々、奄美大島へ出かけて色々な貝を見て来ます、奄美では打上貝では日本で一番種類数が多く打ち上がる場所が有って何時もその場所に出かけています、それでも海岸の形態が変化すると日本一の場所ですら見られない貝も有り奄美では色々な場所に行ってみます。貝には皆さんの目に見える大きさの貝もたくさんありますが、目に見えない様なとても小さい貝、微小貝と言いますが奄美ではとても多く見られます。実際にはその場で見つけれれば良いのですが、砂ごと持って来て後から実体顕微鏡を使って小さな貝を見つけ出します。

実際には目に見える貝よりも小さな貝の方が種類数も多いと言われています。運河ではとても小さい貝は4種程ですが奄美では1000種以上いると言われています。写真からの比較で貝の打上数、運河と奄美と比べてどうかと言うと、北埠頭橋辺りでは奄美に負けない程の貝が打ち上がっています、ただ種類数が少なく単純な構成内容ですが奄美をしのぐ程の貝の量です。運河では移入種が優先種ですがこれ程大量の貝が棲める事はすごい事と思っています。



運河の打上げ貝
白いラインは全て打上げ貝



奄美の砂浜
長く続く砂浜 全体に貝が打上がります

平成26年2月12日

青野良平（記者NO.070103）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月14日

大井町自然再生観察園の今

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月21日

この度、「しながわ環境大賞」を受賞することができました。

現在の大井町自然再生観察園は、多くの木々が葉を落とし、春の訪れを待っている様子です。1月下旬～2月上旬にかけては、ふきのとうが芽を出し、春を感じることができます。

まだまだ寒い日が続きますが、植物の方も春にむけて準備をしているようです。小川では、ゲンジボタルのえさとなるカワニナを見ることができます。ホタルの幼虫は、川底などに隠れてしまい見つけることは難しいですが、今年も6月に羽化し成虫になることを楽しみに、日々観察・管理活動などを小野学園女子中学・高等学校の生態環境調査委員（中学生）と行っています。

暖かくなりましたら、ぜひ足を運んでいただければと思います。

開園時間は毎週木曜日13時～16時30分です。



ふきのとうが芽を出しました

昨年6月のホタルの飛翔の様子と春の様子も合わせてご紹介させていただきます。



2013年6月



2013年4月

平成26年2月20日

小澤良水（記者NO.130105）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月21日

福島復興イベント大成功

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月25日

昨年11月23日に私も関わって開催した福島県郡山市での「ふくしまオーガニックフェスタ」、12月6日には東京の有楽町駅前広場での「行政書士フェスタ―福島は今を考える@東京」の2つの福島復興イベントが大成功しました。いずれも、福島の農業を含むコミュニティの再生が大きなテーマでした。

「ふくしまオーガニックフェスタ」では、放射能の影響をいかにして、できるだけ無くして作物を作っていくか、そのことに努力している多くの農業者が一堂に介し、復興は農業の再生からを訴えました。また、「行政書士フェスタ」のために福島県の被災地を回り、3.11以来ほとんど進んでいない「復興の今」を見て来ました。南相馬市では今でも米の作付けは禁止されていますし、富岡町では震災当時のままで破壊された家屋が建ち並び、壊れた車がそのまま放置されていました。



そして、桜の名所で知られているところはバリケードが張られ、一切の立ち入りが禁止されていました。飯館村では秋というのにトンボがまったく飛んでいない、気持ち悪い程静かな風景に背筋が寒くなりました。原発事故は最大の環境破壊であり、それがいつまでも続いているのです。

しかし、「行政書士フェスタ」では、そうした災禍を乗り越えようとする多くの福島の人々が集り、互いに支え合うコミュニティの再生への道作りが始まっていると実感されるものでした。



平成26年2月21日

新居 邦明（記者NO.100105）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年02月25日

平塚二丁目町会花いっぱい運動

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年03月05日

昨年秋、町会花いっぱい運動協力者に配布した6種類500株の花苗は、元気に次から次へと花を咲かせ、大雪の記憶が残る町会で、道行く人を元気づけています。その時植えた2種類のチューリップの球根も土から芽を出しており、その生長を楽しみにしながら、街角に置かれている200個のプランターを見守っています。



現在、3月末配布予定の花苗500株選びで盛り上がっております。

町会会館屋上の常緑キンソウ（下写真）は、この大雪にもめげず元気に咲いていました。



平成26年2月24日

志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年03月05日

第23回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2014年03月07日

平成26年2月26日(金)、第23回環境記者情報交換会が開催されました。

第1部では、インタメディア代表の佐山吉孝様からお話を伺いました。今年度のメインテーマは「まちは続くよどこまでも～その先が知りたくなくて～」で、最終回の今回は「芝増上寺から江戸城へ」というサブテーマでお話をさせていただきました。



第2部は、環境記者の皆さんに活動報告をしていただきました。

【中西さん】

家では飼わないが可愛いので餌付をする人、さびしくて野良猫に優しくする一人暮らしの老人など、野良猫は減らず糞害が発生しています。動物愛護と環境問題、二律背反ですね。

【志賀さん】

昨年秋、町会花いっぱい運動協力者に配布した6種類500株の花苗は、元気に次から次へと花を咲かせ道行く人を元気づけています。その時植えた2種類のチューリップ球根も土から芽をだし、成長が楽しみです。現在、3月末配布予定の花苗500株選びで盛り上がっております。

【青野さん】

1月末から2月初めにかけて貝の採集のために今回で10回目の奄美大島に行ってきた。今迄見つけられなかった貝をやっと見つける事が出来ました。奄美と品川の運河、生息種類は天と地との違いは有りますが、運河の打上貝の多さは奄美を上まわっています。



【真壁さん】

平成26年「花交差点の仲間たち」の活動始めとして、マンション前歩道花壇の整備と大森海岸駅前歩道橋の清掃を重点に行いました。今年も全体活動として、月例で花壇整備と歩道の清掃活動を継続してまいります。また、大井海岸町会の防犯部と婦人部で月1回の清掃パトロールを行っています。大森海岸駅前歩道橋下(駅側)に大量の鳥フンを発見しました。歩道橋橋げたの配管の上に鳩が住みついているようで、管轄の国交省にハト対策を依頼しました。ペットのように餌をあげる人がいますが、餌を与えることで繁殖力も旺盛になるようです。悪循環ですね。

【高塚さん】

大崎駅周辺で、ボランティアで恒例の年2回の植栽の植え込みをしました。今回は

スノーボールです。高校生、大学生、保育園の先生など、様々な団体が参加しました。植えた後の管理が大変です。苗を抜かれてしまうこともあります。水やりは近所の方がしてくださっています。

【小野さん】

最近自社ビルの電力使用量が徐々に減ってきています。これは冬の電力使用量が減ったことに由ります。年々気温が上がり、冬からいきなり夏の気候になっていくような気がします。気候変動が加速していて大変心配です。また、2年前くらいから、会社の花壇の植物の葉に黒い汚れが付着し元の葉の色が見えない程です。排気ガス、公害の影響でしょうか。



【辻本さん】

3年前、震災の後は節電に興味集中していましたが、昨今はいかに省エネをして快適に過ごすかに関心が寄せられています。LED化を進めることが大変有効だと思います。最近の照明業界のトレンドとして、調色が研究されています。白（活動的）、暖色（やすらぎ）といった心理作用に対して、オフィスなどでも昼は白で夕方～夜は暖色にするといった実験が導入されています。

【坂手さん】

情報交換会は初参加です。環境保全、生物多様性の保護に関する活動を実施するにあたってどのような活動がよいか考えながら、環境記者に数件の記事を書かせていただいています。こういった活動ができるか勉強させてください。

【石田さん】

地域の美化運動の清掃に参加したりペットボトルのフタ集めに寄附をしたり、環境の問題に関わっています。居住地近辺では、排気ガスなどによる空気の汚れが気になっています。カーテンに色がついて落ちなかったり、ベランダの植木の葉が黒くなったりします。



今回は、初参加の坂手さん、石田さんをはじめ9名の記者の方々が出席されました。それぞれのグループ、または個人で意欲的に活動している様子や興味をもってしている事柄についてご報告いただきました。和気藹々とした雰囲気の中、意見や情報の交換が活発に行われ、実りある情報交換会になりました。環境情報活動センターの業務の一端を担う環境記者の活動が、年を経て一層充実してきているのは喜ばしいことです。佐山さんから、「記者の皆さん自身が盛り上げてここまで来れたことがよかった。」とのお言葉をいただきました。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2014年03月07日

「樹木のカ 木の文化と自然環境の講演を聞いて」

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年03月18日

2014年2月に日本民家再生協会の建築家・杉浦千城(すぎうらたてき)さんの講演を品川区民大学教養講座で聞くことが出来た。

「棟梁たちのひたむきな手仕事の継承」について2時間の話であり、前半は日本の森の荒廃の内容であった。奈良時代の終わり頃から木を切り、木を植えるようになったが、昭和40年ころから手入れもしなくなり、木も植えることが少なくなり輸入による安い木材を使うようになった状況説明。後半で古民家と職人の話となる。木を熟知した職人の技として、①ひさしを延ばし②床を高くして通風を取り③骨太の柱を使用し、①②③を大事にしていた。しかし、今はライフスタイルに合わせ①②③が守られていない。長持ちさせようとしていない世界であるという。価値観も変わり目の前の金額に流れる傾向となっている。ここで印象に残る言葉があった。昔「家は貧乏だから安いものは買えない」すなわち貧乏だから長持ちするものを選択するという事であった。大工さんの手仕事は、伝統的な技術を支えてきたが、手間賃が高いと片隅へと流れていく事は寂しい。釘の無い時代の木組みの素晴らしさも模型を使い見せて頂いたが、伝統的な木の特性を生かした知的な技術財産は継承されていく事を願いたい。

日本は、少子化・高齢化が進みどのような選択をすべきかいろいろ考えさせられた。数日前に、たまたま新潟・北方博物館/伊藤家の古民家を訪ねた。130年前の古民家であるが、まさに上記①②③の建物であり、新潟地震でもびくともしていないそうである。



この古民家に東山魁夷画伯の言葉が「古い家のない町は思い出の無い人間と同じである」とあった。心にしみじみと残る。

平成26年3月12日

環境記者 K (NO.120104)

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年03月18日

年間を通した色のある景観づくり

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年03月25日

今朝（2014年3月18日）、サラヤ東京本社花壇の花が朝日を浴びて、ひととき輝いて咲いていましたので 報告いたします。

EMS（環境マネジメントシステムEnvironmental Management System）有益活動の一つ、生物多様性への取り組みをご紹介します。



2014年3月18日（火）8:00 晴れ 予報では春一番が吹くかもとのこと



去年12月に社員で植えた小さな草花が大きく育ち、ご覧のとおり朝日をいっぱい浴びて綺麗に咲いています。



新東海橋交差点にある会社の花壇は、蝶の道プロジェクトの参加ではじめられ、300株以上の草花が植えられています。

交通量の多い環境のなかで、生物多様性の観点から、年間を通して色のある景観づくりとして継続して取り組んでいます。

平成26年3月19日

小野文義（記者NO. 090107）

（事務局）気象庁は、3月18日（火）午前、関東地方に春一番が吹いたと発表しました。

春一番とは、「冬から春への移行期に、初めて吹く暖かい南よりの強い風」です。

（気象庁：「風の強さに関する用語」より）

カテゴリ：平成25年度

投稿日：2014年03月25日